# 日韓両言語の職場呼称について

宋有宰*
song@po4.nsk.ne.jp

<目次>

1. はじめに
2. 研究目的
3. 研究方法
4. 考察
4.1 職場呼称の種類について
4.2 職場呼称の特徴について
4.3 職場での親族語呼称の使用について
5. まとめ

主題語: 社会言語学(Sociolinguistics)、呼称(Address Term)、呼称接尾辞(Honorific Suffix)、親族名(Kinship Term), 職場(Workplace)

## 1. はじめに

韓国語と日本語の両言語を比較対照した研究は文法・語彙・音韻に関する論考が大多数である。そのため、社会言語学的観点からの日韓対照研究は、生越(1997), 洪珉杓(1997)のような研究はあるがまだ少ない。

日本では、戦後間もなく国立国語研究所による言語生活研究が始まり、今日まで数多くの社会言語学的研究が行なわれてきたが、韓国でのこの分野の研究は少なかった。その中でも「呼称表現[1)]」に関する研究論文が最も少ない。呼称表現は、文法や音韻と違って、フェミニズムの導入と拡散、能力主義の登場による年功序列の破壊、儒教思想の衰退、核家族化など、さまざまな要因が反映されて変化していくため、日韓両言語は、他の言語現象に比べてより目立った相違点が見られる。

呼称の言語運用は、文法、音韻などの習得とは異なり、ことばのパラダイムを覚えるような丸暗記だけでは十分に使いこなすことができず、会話場面に登場する人物の性別と年

* 金沢大学 非常勤講師

1) 本稿では、人を呼び掛ける際使うすべての形式を、呼称表現とする。

齢、そして人間関係などを考慮に入れて運用されている。一般に、話し手と聞き手の社会的な関係を考慮しながら呼称が使用されるため、話し手が聞き手に、直接呼びかけたり、言及したりする際に使われる呼称表現(address/reference term)と、社会的変数である性別、世代、親疎、職業などとの関係について分析し、日韓両言語の類似点と相違点を明らかにする必要がある。その上で、両言語の類似点と相違点については、社会的・文化的背景と関連づけて考察する必要があると考えられる。

## 2．研究目的

日韓両言語は、職階がある人に対しては主として職階名で呼ぶという共通点がある。しかし、職階がない人に対しては、日本語では「~サン」の使用がほとんどを占めるのに対し、韓国語では親族語の呼称を使う傾向が強い。本研究では、このような日韓両言語の職場呼称の相違点を解明するために、韓国語社会と日本語社会の言語使用を比較対照しながら、それぞれの職場呼称の使用実態について考察する。

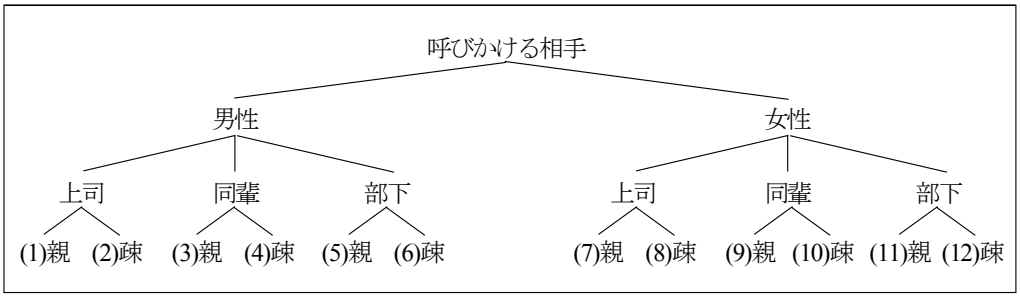
## 3．研究方法

呼称表現の比較対照は、身近な生活と関係の深い問題で、アンケート調査、インタビュー調査、現場観察、文献資料の研究など、いろいろな方法を用いて行われる。その他、テレビドラマや映画の台本などをデータとして取り扱う方法もある。しかし、テレビドラマや映画の台詞や文献資料などは、研究の資料として重要であるが、そのようなデータは人工的コーパスであるため、実際の言語使用が反映されていない。また、データ収集の方法としては、自然観察法という方法があるが、その方法は自然な言語データが得られない恐れがある。そのため、本研究では、データの収集に際しては、十分なデータを確保し、調査結果の客観性を高めるために、主として自己記述のアンケート方法で行った。更に、データの内容に不明な点がある場合は、インタビューの形式で、被調査者本人に直接確認した。被調査者の内訳を以下に示す。

| 職業・性・年齢 | 韓国 | 日本 |
|---|---|---|
| 公務員男20歳代 | 20 | 27 |
| 公務員女20歳代 | 24 | 22 |
| 公務員男30歳代 | 25 | 22 |
| 公務員女30歳代 | 30 | 29 |
| 公務員男50歳代 | 26 | 24 |
| 公務員女50歳代 | 21 | 24 |
| 会社員男20歳代 | 27 | 24 |
| 会社員女20歳代 | 50 | 40 |
| 会社員男30歳代 | 38 | 24 |
| 会社員女30歳代 | 30 | 39 |
| 会社員男50歳代 | 20 | 35 |
| 会社員女50歳代 | 20 | 21 |
| 計 | 331 | 331 |

# 4．考察

人間は言語を運用する際に、日ごろ呼称を用いて人に呼びかけたりする。ある時は家族の構成員として親族呼称を用いたり、ある時は一般呼称を用いて他の人に呼称したりする。また、ある時は職場呼称を用いて職場の構成員に呼称する。本稿では、職場呼称の全体像について考察するとともに、なかんずく職場呼称として用いられている親族語呼称の使用実態と意義に中心を置き、考察する。分析の際には、職種(公務員と会社員[2])、性別、世代の相違がもたらす呼称使用の多様性についても分析を試みる。調査の際に、用いた図を以下に示す(図1)。「職場の中で他の職員に呼びかける際、どのような呼称を用いて呼びかけますか」という設問に対し、呼びかける相手の属性を12の項目に分類して回答してもらった。




<図 1> 呼びかける相手の属性

2) 公務員と会社員に分けた理由は、公務員が固いイメージであり、一般の会社員とは結果が違うと予想されるため。

## 4.1 職場呼称の種類について

本節では、日本と韓国の職場で用いる呼称の種類の類似点と相違点を明らかにする。そのためには、両国で調査した結果からどのような種類の呼称が用いられているのかを確認する必要がある。以下に、職場で用いると回答した日韓両言語の呼称をそれぞれ取り上げ、どのような種類の呼称が職場の中で用いられているかについて検討する。

- 日本語社会の職場で用いられている呼称；姓、姓＋サン、姓＋クン、姓＋チャン、姓＋先輩、姓＋職階名、名、名＋サン、名＋クン、名＋チャン、名＋先輩、名＋職階名、職階名、先輩、きみ、あんた、奥サン、愛称、すみません、その他

- 韓国語社会の職場で用いられている呼称；姓、姓＋ssi(氏)、姓＋gun(君)、姓＋yang(嬢)、姓＋hyeong(兄)、Miss.・Mr.・Mrs.＋姓、姓＋seonbae(先輩)、姓＋seonbae(先輩)＋nim、姓＋職階名、姓＋職階名＋nim、姓＋yeosa(女史)、名、名＋ssi、名＋a(ya)[3]、名＋hyeong、名＋hyeongnim、名＋先輩、名＋先輩＋nim、姓名、姓名＋ssi、姓名＋nim、姓名＋先輩、姓名＋先輩＋nim、姓名＋職階名、職階名＋nim、jeogiyo(あのですね)、hyeong(お兄サン)、hyeongnim(お兄サマ)、nuna(お姉サン)、nunim(お姉サマ)、oppa(お兄サン)、eonni(お姉サン)、dongsaeng(弟・妹)、jagi(自己)＋ya、その他

以上、日韓両言語のネイティブ662人[4](日本語ネイティブ331人、韓国語ネイティブ331人)に回答してもらった職場の中で用いる呼称の種類を挙げてみた。日本語社会の職場で用いられている呼称の種類より韓国語社会の職場で用いられている呼称の種類がバラエティーに富んでいることが分かる。「姓」、「名」のような固有名が単独で、そしてある時は、それら「姓」、「名」に呼称接尾辞の「~サン」、「~クン」、「~チャン」などを添えた形の呼称を用いたり、「職階名」、「先輩」に「姓」、「~サン」などを添えて呼びかけることなどは両言語が共に有している現象である。日本語社会ではまったく見当たらない「Miss.·Mr.·Mrs.」を「姓」の前に添えて呼びかけたり、「hyeong」、「oppa」などのような「親族語呼称」を職場の中で用いるとの現象は、韓国語の呼称が持っている特徴と言える。とりわけ職場で使う「親族語呼称」の在り方の分析は両言語の職場呼称を研究する上で重要な点であると言える。した

3) 「名+a(ya)」における「~a」は子音音節に,「~ya」は母音音節に添えて用いる呼格助詞。
4) 日本は、公務員は主として石川県庁と金沢市役所の職員に、会社員については職種の偏りを避けながら中小企業で調査した。韓国は、Seoul市庁とSeoul市と京畿道の区庁を中心に調査し、会社員は職種の偏りを避けながら中小企業で調査した。

がって、職場呼称として用いられている親族語呼称の実態を考察すると共に、どのような呼称がどのような頻度で用いられているかについても考察する。

## 4.2 職場呼称の特徴について

前節では、「姓名類」、「職階名類」は日韓両言語が共有している呼称であり、韓国語に比して日本語の職場呼称はそれほど種類が多くないと述べた。以下では、両言語社会の職場で用いられている呼称がどのような比率で出現しているかを中心に考察する。

表1は日本語社会の職場呼称の種類と頻度を、そして、表2は韓国語社会の職場呼称の種類と頻度を示したものである。表2においては職場の中で用いられている親族語呼称の例がまったく見当たらない日本語社会との対照のため、親族語呼称を排除した呼称のみを表にした。親族語呼称が職場で用いられていることは韓国語の特徴と言えるが、その詳細については次節で触れることにし、本節では、職場の中で用いられている親族語呼称を除いたところでの呼称について、表1と表2に基づいて考察していくことにする。

<表 1> 日本語職場呼称の種類と頻度

単位：回答数(%)

| 呼称/職業 | 公務員 | 会社員 | 計 |
|---|---|---|---|
| 姓 | 107( 5.0) | 182( 6.9) | 289( 6.0) |
| 姓+サン | 1,264( 59.1) | 1,299( 49.1) | 2,563( 53.6) |
| 姓＋クン | 123( 5.8) | 233( 8.8) | 356( 7.4) |
| 姓＋チャン | 52( 2.4) | 64( 2.4) | 116( 2.4) |
| 姓＋先輩 | | 5( 0.2) | 5( 0.1) |
| 名 | 42( 2.0) | 45( 1.7) | 87( 1.8) |
| 名＋サン | 62( 2.9) | 84( 3.2) | 146( 3.1) |
| 名＋クン | 10( 0.5) | 45( 1.7) | 55( 1.1) |
| 名＋チャン | 78( 3.6) | 119( 4.5) | 197( 4.1) |
| 名＋先輩 | | 2( 0.1) | 2( 0.0) |
| 先輩 | 2( 0.1) | | 2( 0.0) |
| 姓+職階名 | 77( 3.6) | 244( 9.2) | 321( 6.7) |
| 職階名＋サン | 47( 2.2) | 48( 1.8) | 95( 2.0) |
| 名+職階名 | | 1( 0.0) | 1( 0.0) |
| 職階名 | 173( 8.1) | 145( 5.5) | 318( 6.6) |
| きみ | 2( 0.1) | | 2( 0.0) |
| 愛称 | 95( 4.4) | 126( 4.8) | 221( 4.6) |
| あんた | | 3( 0.1) | 3( 0.1) |
| すみません | 2( 0.1) | | 2( 0.0) |
| 奥サン | | 1( 0.0) | 1( 0.0) |
| その他 | 1( 0.0) | 1( 0.0) | 2( 0.0) |
| 計 | 2,137( 100.0) | 2,647( 100.0) | 4,784( 100.0) |

<表 2> 韓国語職場呼称の種類と頻度

単位：回答数(%)

| 呼称/職業 | 公務員 | 会社員 | 計 |
|---|---|---|---|
| 姓 | 1(0.1) | 2(0.1) | 3(0.1) |
| 姓+ssi | | 1(0.0) | 1(0.0) |
| 姓+gun | 10(0.6) | 41(1.8) | 51(1.3) |
| 名 | 33(1.9) | 60(2.6) | 93(2.3) |
| 名+ssi | 224(12.8) | 466(20.4) | 690(17.1) |
| 名+a/ya | 189(10.8) | 316(13.9) | 505(12.5) |
| 姓名 | 30(1.7) | 48(2.1) | 78(1.9) |
| 姓名+ssi | 440(25.1) | 357(15.7) | 797(19.8) |
| 職階名+nim | 269(15.4) | 252(11.1) | 521(12.9) |
| 姓+職階名 | 124(7.1) | 107(4.7) | 231(5.7) |
| 姓+職階名+nim | 304(17.4) | 310(13.6) | 614(15.2) |
| 姓名+職階名 | | 2(0.1) | 2(0.0) |
| 姓+先輩 | 6(0.3) | 19(0.8) | 25(0.6) |
| 姓+先輩+nim | 14(0.8) | 44(1.9) | 58(1.4) |
| 名+先輩 | 6(0.3) | 24(1.1) | 30(0.7) |
| 名+先輩+nim | 13(0.7) | 16(0.7) | 29(0.7) |
| 姓名+先輩 | 5(0.3) | 16(0.7) | 21(0.5) |
| 姓名+先輩+nim | 13(0.7) | 50(2.2) | 63(1.6) |
| Mss./Mr./Mrs.+姓 | 31(1.8) | 78(3.4) | 109(2.7) |
| 姓+yang | 18(1.0) | 24(1.1) | 42(1.0) |
| jagiya | | 2(0.1) | 2(0.0) |
| 姓+yeosa | | 4(0.2) | 4(0.1) |
| jeogiyo | 12(0.7) | 24(1.1) | 36(0.9) |
| その他 | 8(0.5) | 16(0.7) | 24(0.6) |
| 計 | 1,750( 100.0) | 2,279( 100.0) | 4,029( 100.0) |

日本語社会の職場で最も多く用いられている呼称は、4,784件のうち2,563件(53.6%)を占めているが、このような高頻度で用いられる特定の呼称が韓国語社会の職場にないことは両言語社会の大きな相違点として挙げることができる。ここで、日本語社会の職場呼称「姓＋サン」に相当する役割を担う韓国語社会における職場呼称は何か、言い換えれば「姓＋サン」のような高頻度(比率)を占めている呼称がないのはどうしてかという疑問が浮かんでくる。理由として考えられるのは、呼びかける相手が上司・同輩・部下の如何に関わらず用いることのできる「サン」のような呼称接尾辞が存在しないからであると思われる。表2における出現比率の10%以上を占めている呼称は、出現比率17.1%の「名＋ssi」、12.5%の「名＋a(ya)」、15.2%の「姓＋職階名＋nim」、12.9%の「職階名＋nim」、そして19.8%の「姓名＋ssi」がある。韓国語ではこれら四つの呼称が日本語において53.6%を占めている「姓＋サン」の役割を部分的に担っているように思われる。すなわち、韓国語社会においては、「姓＋サン」を用いて呼びかける相手の中の同輩と部下に対しては、「名＋ssi」や「名＋a(ya)」が、そして

上司に対しては「姓＋職階名＋nim」や「職階名＋nim」がそれぞれその役割を担っているのである。以下に上で述べたこと以外に、日本と韓国における職場呼称の特徴についても挙げる。

① 日本語社会における「姓」のみの呼称が6.0％であるのに対し、韓国語社会の「姓」のみの使用率はわずか0.1％で、「姓」のみで呼びかけることはほとんどない。

② 「姓」や「名」に呼称接尾辞(呼格助詞)や「先輩」を添えて呼称することは、使用率に相違こそあれ日韓両言語に共通しているが、日本語の「先輩類」[5]が親しい人に対してしか用いない点からわずかでしか現れなかったのに対し、韓国語の「先輩類」は比較的多い。主に、親しい人やそれほど年齢の離れていない人に対しては呼称接尾辞を付けずに「姓(名)＋先輩」で、それほど親しくない人や親疎とは無関係に上司に対しては敬意を持つ呼称接尾辞を添えて呼びかける。つまり、使用できる相手の幅が広いため「先輩類」の出現頻度が日本語より多い。「先輩」のみは、韓国語社会の職場呼称にはまったく現れなかった。そもそも職場の中には数人の前で呼称する場面が予想され、呼びかける相手を特定する必要があるので「先輩」のみの呼称が現れなかったと思われる。韓国語の「nim」を添えない「先輩」のみの呼称が使用されている理由は次のようなことが考えられる。一つは、「先輩」は「後輩」の相対概念であり、すでに「自分より先」という意味合いを持っているのであり、もう一つは、それほど敬意を表さなくてもいい相手に、打ち解けた気持ちで呼びかけるのである[6]。これら二つの理由から、上司に呼びかける際に「職階名」には尊敬を表す呼称接尾辞の「nim」を付けなくては使用できないのに対して、「先輩」は単独で使用できるのであろう。

③ 「職階名」および「職階名」に「姓」や「名」、もしくは「呼称接尾辞」を添えた呼称にも両言語の相違が際立つ。日本の職場呼称では「職階名」が6.6％であるが、韓国語社会ではまったく見当たらない。その理由は、日本語における「職階名」がそれ自体で敬意を表していると言われているのに対して、韓国語における「職階名」は敬意が含まれていないためである。表2の「姓＋職階名＋nim」・「職階名＋nim」の高い出現頻度がそのことを示している。同時に「nim」の付かない「姓＋職階名」や「姓名＋職階名」は韓国語の「職階名」に敬意がないため同輩や部下に対してのみ用いられている。

一方、先に日本語の「職階名」には敬意が含まれていると述べたが、表1を見るとわず

5) 「先輩」を含めた諸形式の呼称を「先輩類」と称する。
6) 年の離れた相手に呼びかける際は「先輩+nim」を使用するとの実態から反証できるのである。

かではあるが、「職階名＋サン」が4,784件の内95件(2.0%)ある。この現象から「職階名」だけでは敬意が不足する場合があるようだ。95件の内、公務員が47件、会社員が48件あり、公務員と会社員の使用における差はほとんどない。性別による内訳としては、男性が41件、女性が54件となり若干ではあるが女性の方が多くなっている。それに対して、世代については、20歳代には16件、30歳代には26件、そして50歳代には最も多い53件とその差がかなり見られた。「職階名」に「サン」を添えて呼びかける呼称は世代が高くなるほど多くなる傾向がある。

④ 外来語の「Miss.·Mr.·Mrs.」に「姓」を付けて呼びかける呼称「Miss.·Mr.·Mrs.＋姓」は日本語社会では耳にすることのない呼称であるが、韓国語社会では109件(2.7%)が確認された。まず、「Miss.·Mr.·Mrs.」の内でも回答に現れたのは「Miss.」がほとんどであったことを述べておく。この種の呼称は戦後韓国に流入したとされていて戦後間もない頃は盛んに用いられていたが、最近では使用回数が比較的に少なくなっている。世代別の回答数で言うと50歳代に57件に、30歳代に35件、20歳代に17件あることから若い世代には「Miss.·Mr.·Mrs.＋姓」の使用が少なくなってきていると言える。公務員に31件、会社員に78件が確認されたが、一般会社よりは役所の女性のステータスが向上しているからこその結果だと思われる。このことは、近年のフェミニストが増加していることと関係がありそうだ。「Miss.＋姓」と呼ばれていた女性たちが女権の伸張と共に社会の中における女性としてではなく、個人として自己を確立させたい、そのためには固有名詞としての「姓名」で呼びかけられたいという気持ちが「Miss.·Mr.·Mrs.」使用の低下をもたらしているのである。かつてよく使われた「Miss.·Mr.·Mrs.＋姓」に代わって現在では「姓名＋ssi」がよく用いられるようになったのである。

⑤ 感嘆詞型の韓国語の「jeogiyo」類は、呼びかけ語であり、呼びかける相手に適した呼称が見つからない場合、その相手に対してよく用いる呼称として大きな役目を果している。「jeogiyo」の本来の意味は、指示代名詞としての「jeogi(あそこ)」に、話し手が聞き手に対して尊大の意を表す補助詞の「yo(~です・~ます)」が付いた形で、主として親しくない相手や名前の知らない人に呼びかける際用いる。食堂で従業員に呼びかける時、道端で誰かに道をたずねる時など、多様な場面で用いる重要な呼称である。話し手が呼びかける相手と自己との職場内関係、すなわち、相手と親しいか親しくないか、相手が上司か部下か、異性か同性かによって多様な形式7)を場面と状況に合わせ

7)「ya/yae」は親しい同輩や部下に、「jeo/jeogiyo」は上司や親しくない相手に用いる。但し、本稿ではこれらの諸形式を入れてデータ化した。

て使い分けている。

⑥ 日本語の代名詞型の「きみ」は役所において、「あんた」は一般会社においてのみわずかに見られる。「きみ」は主に部下に対して用いる呼称であり、それほど違和感なく用いられるのに対して、「あんた」は親しい相手に、しかも上司が部下に向かって用いる俗っぽい呼称であるので、役所では登場しなかった。それに対して、日本語の「きみ」に相当する韓国語の「neo」、「あんた」に相当する「dangsin」は言及称としては用いるものの、人に直接呼びかける際にはまったく用いない。韓国語の職場呼称だけでなく親族呼称や一般呼称においても同様の傾向がある。

⑦ 「愛称」が職場の中で用いられている実態は日本語の特徴とでも言えるであろう。この類の呼称は韓国語社会では使用件数がまったくなかった。しかし韓国語に「愛称」がないからではない。会社の外で親しい相手に、および友達同士が呼びかけあう場面ではよく耳にするのである。職場の中での使用件数がゼロである理由は、ことばが持っているステータスの相違からであろう。日本語の愛称のほとんどは名前の一部か名前を変形した形であるがゆえにことばとしてのステータスがそれほど低くないと思われる。それに対して、韓国語のほとんどの愛称は、私的な場面において、親しい友達に対してのみ呼びかけることのできる愛称がほとんどである。

⑧ 日本語の「奥サン」や韓国語の「姓＋yeosa(女史)」の使用も確認され、日本語にはその使用が見当たらない「姓＋yang(嬢)」、「jagiya(自己＋ya)」が韓国語社会では確認できた。とりわけ「jagiya」は再帰代名詞の「jagi(自己)」に呼格助詞の「ya」がついた形で、主に若い夫婦間においての呼称として用いられているが、女性が呼びかける相手である同輩や年下の女性に対して親しみを込めて呼びかける呼称でもある。多用されている日本語の「姓＋サン」にその性格が似ているとされてきた「姓＋ssi」は、会社員の50歳代の女性が、親しくない男性部下に対して用いた例の1例しか確認できなかった。

## 4.3 職場での親族語呼称の使用について

まず、職場での親族語呼称の使用について調査した結果を表3と表4に示し、類似点と相違点について述べる。

<表 3>職場での親族語呼称の使用件数(日本)

単位：回答数

| 職業/呼称 | 親族語呼称 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|
| 公務員 | 0 | 2,137 | 2,137 |
| 会社員 | 0 | 2,647 | 2,647 |
| 計 | 0 | 4,784 | 4,784 |

<表 4> 職場での親族語呼称の使用件数(韓国)

単位：回答数

| 職業/呼称 | 親族語呼称 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|
| 公務員 | 54(3.0) | 1,750(97.0) | 1,804 |
| 会社員 | 114(4.8) | 2,279(95.2) | 2,393 |
| 計(平均) | 168(4.0) | 4,029(96.0) | 4,197 |

表3と表4から、両言語における職場の中での親族語呼称の出現頻度に相違が見られる。まず、表3からは、公務員と会社員から得た回答数が4,784もあるが、その内、親族語呼称を用いて呼びかけると言ってくれたインフォーマントは一人もいなかった。このことは韓国語のそれと対照する上で注目できる。韓国語の職場で用いる呼称を親族語呼称とその他の種類に分けてまとめた、表4を見てみよう。回答数4,197件の内、親族語呼称を用いて相手に呼びかけるとの回答が168件あった。そもそも職場は、親族社会や一般社会とは違って職階名や姓名を含んだ呼称を用いて呼称するのが常である。その中での親族語呼称の使用であるだけに親族語呼称の回答数が少なくなっているのは当然であるだろう。

<表 5> 韓国語の親族語呼称の世代別使用件数

単位：回答数

| 呼称/世代 | 20歳代 | 30歳代 | 50歳代 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 姓+hyeong | | 1 | 8 | 9 |
| 名+hyeong | 6 | 3 | | 9 |
| 名+hyeongni m | 2 | | 3 | 5 |
| hyeong | 7 | 2 | | 9 |
| hyeongni m | 2 | 17 | 2 | 21 |
| nuna | 15 | | | 15 |
| nuni m | 3 | | | 3 |
| oppa | 5 | 2 | | 7 |
| eonni | 48 | 33 | 7 | 88 |
| dongsaeng | | | 2 | 2 |
| 計 | 88(5.6) | 58(3.8) | 22(2.0) | 168(4.0) |
| 世代別総件数 | 1,569 | 1,544 | 1,084 | 4,197 |

表4における4,197件の内の168(4％)という数値はそれほど際立つ数値ではないが、表3の日本語における職場内の親族語呼称の回答数が皆無であることと対照すると168( 4 ％)件の回答数は注目していいであろう。

表5は、韓国語の中で出現した親族語呼称を世代ごとに分けて記したものである。これによれば、20歳代における親族語呼称の出現頻度が最も多く、世代が高くなるにつれて出現頻度は少なくなっている。20歳代において親族語呼称が最も多く現れた理由としては、表5に挙がっている親族語呼称を用いて呼びかけられる相手のほとんどは職階がないことが挙げられると同時に、会社に入る前に親族や他人に対して頻繁に使われた親族語呼称がそのまま会社の中でも用いられるようになったことが挙げられる。

また、表4から公務員と会社員の使用のあり方に食い違いがあることが分かる。公務員における親族語呼称の使用率が3.0％であるのに対して、会社員は4.8％なのである。この数値の相違は、職場の構成員同士の親疎関係、役所と一般会社の規模や職場環境がもたらす職場の雰囲気などが職場の中での親族語呼称の出現頻度に影響していると思われるが、具体的な理由は、会社員が公務員と比べてより共同社会に近いためであることが挙げられる。同じゲゼルシャフト[8)]の構成員である職場の構成員ではあるが、公務員と会社員は、各々が所属している社会に質の相違があるように思われる。公務員が異論のないゲゼルシャフトであるのに対して会社員はややゲマインシャフトに近接したゲゼルシャフトであることは明白である。二つ(公務員・会社員)の社会における性格の相違が生み出した結果が表6に示されているのである。

職場で用いられている呼称にはどのような種類の親族語呼称があるのかを韓国語の分析結果に基づいて、そして、親族語呼称の他にはどのような呼称が用いられているのかについては両言語の分析結果に基づいて具体的に見ていくことにする。

職場の中で用いられている親族語呼称は、「hyeong・hyeongnim・nuna・nunim・oppa・eonni・dongsaeng」であることが今回の調査で明らかになった。以下の表6に示す。

8) ゲゼルシャフトは「利益社会」を、ゲマインシャフトは「共同社会」を指す。

<表 6> 職場の中の親族語呼称・公務員と会社員(韓国)

単位：回答数

| 呼称/職業 | 公務員 | 会社員 | 計 |
|---|---|---|---|
| 姓+hyeong | 5 | 4 | 9 |
| 名+hyeong | 2 | 7 | 9 |
| 名+hyeongni m | | 5 | 5 |
| hyeong | 3 | 6 | 9 |
| hyeongni m | 8 | 13 | 21 |
| nuna | 6 | 9 | 15 |
| nuni m | 1 | 2 | 3 |
| oppa | 1 | 6 | 7 |
| eonni | 28 | 60 | 88 |
| dongsaeng | | 2 | 2 |
| 計 | 54(3.0) | 114(4.8) | 168(4.0) |
| 職種別総件数 | 1,804 | 2,393 | 4,197 |

これらは、すべて兄弟姉妹関係において用いられる呼称なのである。「hyeong・hyeongnim」は、弟が兄に対して用いる「お兄サン」、「お兄サマ」に、「nuna・nunim」は、弟が姉に対して用いる「お姉サン」、「お姉サマ」に、そして、「oppa」は、妹が兄に対して用いる「お兄サン」に、「eonni」は、妹が姉に対して用いる「お姉サン」にそれぞれ相当する。また、「dongsaeng」は、日本語で言えば「弟」や「妹」を指す親族語呼称であるが、日本語の「弟」や「妹」が直接呼びかける際に用いられないのに対して、韓国語の「dongsaeng」は直接呼びかけることのできる呼称である点が日本語のそれと大きく異なる。

「hyeong」類は、表6における親族語呼称の総回答数が168件ある中で53(31.1%)件を占めている。主として男性同士で用いられているが、次節で触れる「eonni」(168件の内88件)の回答数とは相当異なる。

親族語呼称の使用については、公務員より会社員の方が多くなっているが、「姓＋hyeong」のみ公務員の方が会社員の回答数を上回っている。「hyeong」が「お兄サン」の韓国語であることは上で述べたが、「姓＋hyeong」と「名＋hyeong」は用いる対象が異なる。つまり、「名＋hyeong」は親族にも用いるのに対して、「姓＋hyeong」は親族に対しては用いないのである。もし、「姓＋hyeong」が親族同士でも用いられる呼称であれば、ここでも会社員が公務員を上回ったに違いない。

また、本来は「弟」が「兄」に対して用いる呼称であるが、女性が男性に対して呼称する際用いる「hyeong」類も確認できる。いつから使われるようになったかは不明であるが、「漠然とした間柄の相手に使いやすいと同時に、一種の性的な意味が含まれていないとの理由から大学において使われ始めた」최권진(1998)とされる。具体的には、女性専用の「oppa」を用

いて呼称するより、「hyeong」を用いて呼称する方が、呼びかける相手との関係、すなわち、親しいか親しくないかとの親疎関係を問わずに用いやすい。また、性的な意味が含まれていないから用いると思われると回答してくれたのは、呼びかける方の女性が4％であるのに対して、呼びかけられる方の男性は35％の回答率が表れている。「hyeong」の使用における意識が性別によって違うことを意味する。今回の職場の中での「hyeong」の使用は、大学で使い始めた呼称の延長線上の使用として捉えられる。

職場の中で用いる他の親族語呼称に比べて「eonni」だけが際立った数値を示している。それは、同性の相手であるため親族語呼称を用いて呼称しやすい点が挙げられる。このことについては、前節で述べた男性同士で呼称する「兄」の概念をもった諸形式の呼称(「名＋hyeong・名＋hyeongnim・hyeong・hyeongnim」)を合わせた数値と対照してみると明らかである。つまり、同性同士では、相手の属性(呼びかける相手が親族か職場の同僚か他のメンバーか)如何に関わらず、親族語呼称を用いて呼称しやすいのである。異性同士の親族語呼称(「nuna・nunim・oppa」)の使用が少ないことからも上で述べたことが明らかである。しかし同性同士の場合、親族語呼称をもって呼称しやすいと述べたが、男性同士の親族語呼称(「hyeongを含んだ諸呼称」)が168件の内53件(31.1％)あるのに対して、女性同士の親族語呼称である「eonni」が168件の内88件(52.4%)、すなわち、1.7倍近くもある理由にはならないであろう。ここで、「eonni」が最も多く用いられている理由を提示する。

このことは、役職に付いている女性が少ないことと関係があるだろう。つまり、呼びかける相手が職階を有している女性の上司であるならば、職階を用いて呼びかけるのが常であるだろうが、男性の上司とは違って多くの女性の上司は肩書きがない。そのため職階名以外の呼称である「eonni」の出現頻度が高くなっている。職階名以外の呼称として女性が上司の女性に対して用いられると思われる呼称には、「親族語呼称」の他にも「先輩」類や「(姓)名＋ssi」などが挙げられるが、対人関係を円満に営んで行きたいとの意思が女性においてより強いため、その働きをする「親族語呼称(eonni)」の出現頻度が男性同士においてより女性同士において、より高いのである。以上に挙げたことが「hyeong」類より「eonni」の回答数が多い理由であると考えられる。

# 5. まとめ

職場呼称として用いられている呼称の中には、「職階名」や「姓・名」を用いて呼称したり、または、日本語の「~サン」、「~クン」、「~チャン」、韓国語の「~ssi」、「~nim」、「~yang」のような呼称接尾辞を用いる形式は両言語に共通して見られる現象である。そして、外来語の「Miss.・Mr.・Mrs.」を用いて呼びかけるなどの諸特徴については「4.2. 職場呼称の特徴について」で述べた通りである。

日韓両言語の職場呼称の相違点として最も目立つ点は、親族語呼称の使用の有無であろう。日本の職場では全く見られなかった親族語呼称が韓国の職場ではわずかではあるが現れた。職場で用いられている親族語呼称の種類は、「hyeong」類、「nuna」類、そして「oppa」、「eonni」、「dongsaeng」があるが、これらは皆兄弟(姉妹)同士において用いる呼称である。

以上、本稿では、両言語の「職場呼称」について考察したが、若干ではあるが、親族ではない相手に対して親族名を使用する、いわゆる「親族語呼称の拡大使用」が見られた。このことについては、今後どのような方向へ変化していくのかについて観察し、更に検討する必要があると考えられる。つまり、このような言語使用が一般的傾向として定着するのか、それとも一時的な現象に過ぎず消滅してしまうのかについて、更に考察する必要があると考えられる。これを今後の課題にしたい。

**【参考文献】**

이무영(1994)『예절바른 우리말 호칭』여강, pp.149-158
최권진(1998)「대학사회에서 여자후배가 남자선배를 부를 때 사용하는 “형”이라는 호칭에 대한 사회언어학 소고-한국외국어대학교와 숙명여자대학교를 중심으로 -」『韓国外大通訳協会誌』韓国外国語大学
洪珉杓(1997)「한일양국호칭의 사회언어학적 고찰―大学生들의 呼称使用을 中心으로―」『日語日文学研究』30, 日語日文学会
姜錫祐(1998)「待遇行動としての韓国語における人称表現」『日本語学』17－9, 明治書院
生越直樹(1997)「朝鮮語の社会言語学的研究」『日本語と外国語との対照研究Ⅳ日本語と朝鮮語』国立国語研究所, pp.51-56
尾崎喜光(2008)『対人行動の日韓対照研究』ひつじ書房, pp.1-27
杉戸清樹(1976)「職場での敬語―『職階』と敬語―」『言語生活』295, 筑摩書房, pp.30-41
宋有宰(2000)「日韓両言語の呼称接尾辞について―『~サン』と『~ssi』の類似点と相違点を中心に―」『社会環境

研究』5, 金沢大学大学院 社会環境科学研究科, pp.67-76
_____(2001)「日韓両言語の呼称表現について―親族呼称の拡大使用を中心に―」『社会環境研究』6, 金沢大学大学院 社会環境科学研究科, pp.101-108
_____(2002)「日韓両言語の親族呼称について―鈴木孝夫(1973)の『虚構的用法第2種』の考察―」『金沢大学国語国文』27, 金沢大学 国語国文学会, pp.84-92
原忠彦(1979)「親族名称」『ふぉるく叢書９・仲間』弘文堂, pp.253-278
米田正人(1990)「ある社会組織の呼称―夫婦の呼び方と職場での呼びかけについて―」『日本語学』9-9, 明治書院, pp.19-24
渡辺友左(1970)『社会構造と言語の関係についての基礎的研究(2)』国立国語研究所, pp.182-187
_____(1979)『各地方言親族語彙の言語社会学的研究(1)』国立国語研究所, pp.126-132

논문투고일 : 2013년 03월 10일
심사개시일 : 2013년 03월 20일
1차 수정일 : 2013년 04월 09일
2차 수정일 : 2013년 04월 15일
게재확정일 : 2013년 04월 20일

## 〈要旨〉

### 日韓両言語の職場呼称について

職場呼称として用いられている呼称の中には、「職階名」や「姓・名」を用いて呼称したり、または、日本語の「~サン」、「~クン」、「~チャン」、韓国語の「~ssi」、「~nim」、「~yang」のような呼称接尾辞を用いる形式は両言語に共通して見られる現象である。そして、外来語の「Miss.・Mr.・Mrs.」を用いて呼びかけるなどの諸特徴が見られた。諸現象の中で、日韓両言語の職場呼称の相違点として最も目立つ点は、親族語呼称の使用の有無であろう。日本の職場では全く見られなかった「hyeong」、「eonni」のような親族語呼称が韓国の職場ではわずかではあるが現れた。このような職場での親族語呼称の使用が、今後、一般的傾向として安定するのか、あるいは消滅していくのかが気になる。今後の課題にしたい。

### About the use of honorifics in the Japanese and South Korean workplace

In both the Japanese and the South Korean workplace, individuals are addressed by their professional title, their full name or their family name with the addition of an honorific suffix (-san, -kun or -chan in Japanese and -ssi,-nim or -yang in Korean). In some cases the foreign language honorific prefix (Miss, Mr or Mrs) is also used. The most outstanding difference between the use of Japanese and South Korean honorifics in the work place, is the use of sibling titles. In some cases the use of older brother (hyeong) and older sister (eonmi) can be observed in the South Korean workplace, whereas the use of sibling titles is never seen in the Japanese workplace. One wonders whether the use of sibling titles will continue to be used or disappear for use. I am interested in investigating this theme in more detail.